

INDEX

3 拓南製鐵、拓南商事、拓南製作所の
技術改善活動成果発表大会

7 TOPICS

年頭祈願・初荷式・拓伸会5社に「所得向上応援
企業」認証／ネジメック先組み工法見学会／
西原GCでゴルフ初体験／製鐵で県内初の「企業
出向き接種」／金属疲労勉強会を振り返ってetc.

12 特別企画(有休休養)

今回は本社、製鐵、商事、製作所の5ケースです

【うりづん】 おれづむ、うりづみともいう。大地が潤い、
麦の穂が出る時節のこと。『沖繩語辞典』(研究社)より

拓伸会会報(隔月発行)

〒900-0025

沖縄県那覇市壺川3の2の4 [拓南ビル3F]

拓南本社内「たくしんNEWS」編集委員会

TEL.098-831-8228 FAX.098-832-0586

「拓鐵興琉」の 業績と人柄をしのぶ

古波津清昇 生誕100周年記念式典・祝賀会



黒島善茂前名誉会長による「創業者の思い出」



比嘉良雄氏の音頭で乾杯=2頁参照



小湾正博
副会長

拓伸会主催による「古波津清昇創業生誕100周年記念式典・祝賀会」が2月1日、沖縄ハーバービューホテル白鳳の間で開かれた。拓伸会会員企業、協力企業、古波津製鐵育成基金、拓南友の会、古波津家などから約130人が参加した。拓伸会創業者のあゆみを共に振り返り、創業の志を確認し合い、人柄をしのぶ集いになった。新型コロナウイルス対策を十分に講じ、記念式典と祝賀会の2部構成で行われた。司会は、拓南製作所の奥平勉専務取締役が務めた。

記念式典では、司会者がまず、1923(大正12)年に誕生し2017(平成29)年に逝去した創業生・古波津清昇の経歴を紹介した。

続いて、小湾正博副会長が「開会あいさつ」に立った。「本日、生誕100周年の節目を迎えた。もし、創業者が農事試験場にそのまま務め

ていたなら、拓南グループは存在しなかったし、この会場にいる皆さんは、全く別の人生を歩んでいたことになる。創業者のまねにみる才能と行動力のおかげで、社員、関係者とその家族合わせて3000人以上の生活の糧を与えてもらっている」

決断力に驚かされた

小湾副会長はまた、当時の拓南製鐵が一時的な資金ショートに陥りかけた際、創業生がグループの経営者として厳しい判断を下した一方、個人的に無利子で援助してくれた秘話を披露した。

「その後、一度も資金ショートの危機を招くことなく、順調な経営を続けられているのは、創業者の、厳しいながらも深い恩情のおかげだ。拓南製作所一同、創業者の期待を裏切らないように頑張っていく」

続いて、創業者のあゆみを

紹介するスライド上映が行われ、社是「拓鐵興琉」を彷彿とさせた。

映像とナレーションで創業者の業績と人柄を振り返り、「悲惨な沖繩戦による鉄屑という負の遺産を有効活用し、沖繩の製鉄業をつくりあげた。その大きな業績は、沖繩を思う強い郷土愛から生まれたものではないか。あくまでも県産品にこだわ

り、悲劇的な沖繩戦による鉄屑という負の遺産を有効活用し、沖繩の製鉄業をつくりあげた。その大きな業績は、沖繩を思う強い郷土愛から生まれたものではないか。あくまでも県産品にこだわ

り、悲劇的な沖繩戦による鉄屑という負の遺産を有効活用し、沖繩の製鉄業をつくりあげた。その大きな業績は、沖繩を思う強い郷土愛から生まれたものではないか。あくまでも県産品にこだわ

り、悲劇的な沖繩戦による鉄屑という負の遺産を有効活用し、沖繩の製鉄業をつくりあげた。その大きな業績は、沖繩を思う強い郷土愛から生まれたものではないか。あくまでも県産品にこだわ

り、悲劇的な沖繩戦による鉄屑という負の遺産を有効活用し、沖繩の製鉄業をつくりあげた。その大きな業績は、沖繩を思う強い郷土愛から生まれたものではないか。あくまでも県産品にこだわ

り、悲劇的な沖繩戦による鉄屑という負の遺産を有効活用し、沖繩の製鉄業をつくりあげた。その大きな業績は、沖繩を思う強い郷土愛から生まれたものではないか。あくまでも県産品にこだわ

り、悲劇的な沖繩戦による鉄屑という負の遺産を有効活用し、沖繩の製鉄業をつくりあげた。その大きな業績は、沖繩を思う強い郷土愛から生まれたものではないか。あくまでも県産品にこだわ

り、悲劇的な沖繩戦による鉄屑という負の遺産を有効活用し、沖繩の製鉄業をつくりあげた。その大きな業績は、沖繩を思う強い郷土愛から生まれたものではないか。あくまでも県産品にこだわ

り、悲劇的な沖繩戦による鉄屑という負の遺産を有効活用し、沖繩の製鉄業をつくりあげた。その大きな業績は、沖繩を思う強い郷土愛から生まれたものではないか。あくまでも県産品にこだわ

り、悲劇的な沖繩戦による鉄屑という負の遺産を有効活用し、沖繩の製鉄業をつくりあげた。その大きな業績は、沖繩を思う強い郷土愛から生まれたものではないか。あくまでも県産品にこだわ



生誕100周年を祝す鏡開き



古波津昇会長による親族あいさつ

「100年企業」を誓う

「1頁より」
いるの。あなたには配慮する責任があるのよ。会社を背負っている人をこんなに酔わせてどうするの。あなたもいま、二日酔いしようが、今

続いて、古波津昇会長が「親族あいさつ」を行い、出席者に感謝の言葉を述べ、デイレクターを務めた拓南本

社の翁長辰伍人事部長をはじめ式典スタッフをねぎらった。そして、父である創業者の思い出を振り返るなかで、晩年のエピソードを披露した。

「父は月に一度ほど、しみじみと『ぼくがやってきたのは正しかったのかな』と問うようになった。そのたびに私は『せがれとしては、自分の父を評価することなどおこがましくてできない。しかし、あなたが興じた事業が60年以上も続き、社員の皆さん

「サトウキビの葉を落とす脱葉機を制作するにあたり、その図面をめぐって創業者と1対1で指示を受ける機会があった。浦添工場の広い社長室で、傍らでサポートしてくれる先輩もなく、こうなるからこういうふうにしたらこうなるよね」と細かいアドバイスを受けた。緊張したが勉強になった。試行錯誤の末に試作機をつくりあげた。テストのために本島北部へ行き、葉を落とすためにワイヤー、チェーンあるいはナイロ



八木実 拓南製鐵社長
比嘉良雄 古波津基金元理事
仲座清正 副会長
川上哲史 拓南商事社長

社是と社訓は道しるべ

農家と接しながら自然や環境からいろいろなことを学びなさい、という教育的な意

記念式典の閉会后、引き続き祝賀会が催された。

社歌斉唱の後、仲座清正副会長が「開会あいさつ」に立ち、次のように述べた。

「創業者は、拓伸会会員企業を立ち上げた起業家であり、優れたエンジニアであり、鉄の歴史の研究者であり、琉歌の歌人でもあった。その足跡の偉大さに感銘を受けているのは私だけではないだろう。創業者が遺した社是「拓

勤勉努力、自分のためにみんなの為に 拓いて征かう、忍耐強く」をしっかりと継承し、沖縄の自立のための経済発展に貢献することが、拓伸会が100年企業にな

向があったのではないかと

思う」

る大きな道しるべではないかと確信している」

続いて、開会を飾る「かぎやて風」が披露された。

演じたのは、拓南製鐵の又吉美幸課長代理、拓南製作所の山城貴子課長代理、拓南本社の島袋緑主任、三線演奏は、拓南友の会の後間儀雄会長、石川達重副会長、長田朝達会員（元会長連転手）が務めた。

その後、生誕100周年を祝す鏡開きが行われ、ステージ上の酒樽（八重瀬町東風平の「南光」）の前に古波津昇会長をはじめ、拓南製鐵の八木実代表取締役社長、拓南商事の川上哲史代表取締役社長、拓南製作所の本部紹吉代表取締役社長、拓伸商事の大城秀政代表取締役社長が並んだ。

続いて乾杯に移った。古波津製造業育成基金の比嘉良雄元理事がステージに上がり、沖縄県工業連合会の副会長就任を創業者から打診された際のエピソードを披露し、会場を沸かせた。

比嘉元理事は「御衆ヨ、カリイサビラ！と会場に向けて杯を掲げ、会場も「カリイ」と応じた。1頁参照。

その後、拓南友の会の後間会長、石川副会長、長田会員、金城法恵さん（後間会長のお弟子さん）による余興がステージで披露され、会場では新型コロナウイルス対策のもと、



肖像画の傍らで「かぎやて風」を披露



拓南友の会有志による余興

創業者の思い出話を交わしながら食事を楽しんだ。

第2部の祝賀会は、拓南製鐵の八木社長による「開会あいさつ」で締めくくられた。「40年前に入社した際、創業者が『営業担当は鉄筋を売る前に自分を売りなさい』『メーカーだからといって威張ってはいけない』『皆さんがお客様だから謙虚になりなさい』とアドバイスしてくださった。その後も、厳しくも温かく見守っていただいたおかげでいまの自分がある。拓南製鐵は浦添から移転して28年になる。設備をリニューアルするために大きな投資をする時期にきており、古波津会長に相談したところ『新しい工場を造るくらいのもりでやいなさい』と激励を受けた。さきほど、黒島前名譽会長から創業者の決断力の話聞いたが、古波津会

長もたいへんな決断力をお持ちだと痛感した。拓南グループは今年、70周年を迎える。創業者に対し、古波津会長を筆頭に100年企業を目指して一同が頑張っていくことをお誓いし、閉会としたい」

《13頁に関連記事》

加工・品質合同(スタッフ)と

圧延C班(現場)に最優秀賞

第17回改善活動成果発表大会 拓南製鐵

拓南製鐵の第17回改善活動成果発表大会が2月16日、うるま市民芸術劇場ホールで開かれた。スタッフチームの部(8チーム)と現場改善チームの部(9チーム)の計17チームが発表した。最優秀賞は、スタッフチームの部が加工センター・品質管理室合同(テーマ「統計的手法を用いた溶接実験」)、現場改善チームの部が製造部圧延C班(「精整4ゾーン周りの問題点の撲滅」)。講評で、八木実代表取締役社長は「審査は甲乙付け難く、受賞に至らなかったチームのテーマ(気づき)も良かった。さらなる継続と深掘りに期待する」と激励した。

発表大会には、協力企業を含む中部事業所勤務の全社員、拓伸会関係者が参加した(Web配信による参加含む)。

席上、八木実代表取締役社長が「開会あいさつ」をした。「改善はものづくりの原点だ。拓南製鐵においてはその歴史でもある。各チームの皆さんは、改善に対する意識、技術の高さ、実践における活動成果を大いに発表してほしい」

続いて、古波津昇代表取締役役会長が「会長あいさつ」に立った。「環境、お客様、働いている皆さんの安全衛生に向けて改善を重点的に考え、その

い。会場には、拓伸会県内4社の30人余も出席されているが、発表を参考されていた(グループ内の情報共有、連携強化、グループ全体の最適化に役立てていただきたい)。

そのなかで寒河江氏は「働くことは、拓南製鐵の歴史をつなぐこと。自分自身をどう生かせるか、決めることだ。創業者は『製造業の振興なしに沖縄の発展はない』と覚悟を決めた」「人の成長なしに企業

上で、コスト削減、品質向上につなげていく活動を期待している。ところで、拓伸会の今年度改善活動成果発表大会は、拓南製作所も初開催し、3社が実施した。3社入賞チームの発表会をいづれに行い、拓伸会全体で情報を共有し、グループ全体の成長につなげていこうとしている」

その後、拓南製鐵と拓南商事の技術改善活動を指導している寒河江孝志氏が「拓南製鐵の人づくり」をテーマに講演した。

そのなかで寒河江氏は「働くことは、拓南製鐵の歴史をつなぐこと。自分自身をどう生かせるか、決めることだ。創業者は『製造業の振興なしに沖縄の発展はない』と覚悟を決めた」「人の成長なしに企業



最優秀賞(スタッフ)は加工・品質合同に。(左から)八木社長、古波津伸氏



最優秀賞(現場改善)は圧延C班に。(左から)八木社長、金城龍成氏

《スタッフチームの部》
○製造部製鋼班「スマートグラスを活用した製鋼作業の技術伝承」(発表とPC

発表は、スタッフチームの部、現場改善チームの部の順で行われた。各チームの持ち時間は13分(入れ替え時間含む)

発表は、スタッフチームの部、現場改善チームの部の順で行われた。各チームの持ち時間は13分(入れ替え時間含む)

○営業部「Ticonシア率奪還に向けた取り組み」(橋西裕太郎氏)

鉄筋需要が減少傾向にあるなか流入材が増加している。シェア率回復を目標に、

鉄筋需要が減少傾向にあるなか流入材が増加している。シェア率回復を目標に、

新聞等の情報を収集し現場リサーチリストの作成および現場訪問を行ってきた。特約店に限らず各方面にもアプローチし、また社をあげての情報収集もお願いし、精度を高めている。

○環境室「県内企業の環境リーディングカンパニーに向けて」(大内純氏)

3年計画の2年目。人材育成の取り組みとして、コージェネなど環境設備社外教育を実施し、自部署の改善活性化につなげた。また、鉄筋製品の付加価値向上を目的に、各部と連携し、エコリーフの取得に取り組んでいる。

○加工センター「品質管理室合同「統計的手法を用いた溶接実験」」(古波津伸氏、盛島守礼氏)

新規溶接機の早期評定取得が課題であり、溶接条件の総当たり実験では勘や手探りで進めるため条件確定に時間が掛かっていた。そこで、統計的手法の実験計画法(応答曲面法)を用いた。その結果、溶接条件確定まで1

サイズ当たり20日間から10日間(溶接および試験の専属者あり)に短縮できた。

○製造部圧延班「ネジテコ形状安定化」(玉城聖也氏)

製品ねじれの原因を考察し、N25のひねりがコントロールできない現状を改善するため、スタンドの隙間調整やガイドローラー側の調整を実施した。不良品発生率を48・7%から0・93%に減少させ、ネジテココンの形状を安定化させた。

○技術部「コンプレッサー室環境改善」(発表・外間太朗氏、P.C操作・長谷川雅斗氏)

屋外からCP室に粉じんを引き込んでしまい、室内の環境悪化、CP本体の故障原因になっている。吸気箇所の変更、吸気口フェンスの設置、メッシュフェンスへの散水などを行い、現在、吸気ダクト集じんフィルターを設置中。

○現場改善チームの部

○営業管理部「家畜伝染病対策用消石灰出荷に向けた社内外での取り組み」(新垣大樹氏)

家畜伝染病発生と製糖期が重なる冬季の緊急時に備え、行政機関、JAおきなわ、石灰工場と定期的な情報収集や打ち合わせを実施。前倒し生産、置き場の確保、防疫資材の購入、運転手への車両消毒指導、養鶏場リストの見える化を進めた。

《現場改善チームの部》
○製造部圧延B班「D10SD16の冷却床での製品曲がり対策」(喜友名翔平氏、小渡啓登氏)

製品曲がりは、抜取や補充など無駄な作業を発生させ、また安全リスクも伴う。さらに曲がりを見逃すと苦情につながる。そこで、さまざまな形状の補助スタレを作成し、テストを繰り返して標準化につなげた。

○技術部「現場・改善活動紹介」(亀谷優輝氏、喜屋武介)

《4頁へ》

《4頁へ》

《4頁へ》

《4頁へ》

《4頁へ》

《4頁へ》

《4頁へ》

《4頁へ》

《4頁へ》

《4頁へ》

《4頁へ》

《4頁へ》

《4頁へ》

《4頁へ》



《3頁より
和成氏》

圧延工務班は、鋼材置場のラック等を環境改善した。製鋼工務班は、ポンプ部品を定位置化した。製鋼電力班は、VSA冷却塔冷却ファンをインバータ化し、温度制御による省エネ化を図った。

○製造部製鋼CCMB班「断気BOXによるビレット介在物防止」(平良優氏、照屋貴浩氏)

新たな断気BOXにより、高品質のビレット生産を目指した。ところが、窒素ガスの発生量に制限があり、流量設定やBOXの耐久性の問題があった。長時間使用テストで耐久性をクリアし、流量の評価として、鑄片の介在物観察や圧延工程での疵検出で効果を見ている。

○製造部圧延班保全「改削作業の身体的負担の低減」(満井海輝氏、宮里悠也氏)

改削時のロールを素手で持ち上げているため、約25キロと重く、腰痛が問題になっている。腰痛予防対策指針の推奨値を目標に、クレーン吊り上げ専用治具を製作して改善した。ロールをボックスから地面に置く際を除き、それ以外で持つことがなくなった。

○製造部石灰工場「破碎室粉じん対策」(松田智喜氏、赤嶺唯温氏)

サンブル破碎時の粉じん過多対策として集じん機が必要だった。市販品は高価なので、サイクロン集じん機の構造を調べ、まずは自作してみた。作業環境第3管理区分から第1管理区分となり、測定する沖縄県環境保全研究所からお褒めの言葉をいただいた。

○製造部圧延A班「グリス使用量の最適化」(當眞嗣久氏、新里健氏)

集中給脂装置で行っている給脂の際、グリスがあふれている所がある。分配弁の空きスペースを利用して作業台を設けた。段ボールのなかにバラバラで入っていた備品を、種類やサイズごとに分類し、ひと目で分かるようにした。階段を設置し、分析室上までの移動が近くなった。

○製造部圧延C班「精整4ゾーン周りの問題点の撲滅」(金城龍成氏、西平聡氏)

製品の品質として、D10の製品で小結束から1本こぼれる現象が生じていた。ビデオ撮影を用いた現場の確認でいくつかの問題箇所を特定し改善を繰り返した。他にも、開口部へ足を落とすリスクをステージ設置で改善した。

○製造部製鋼炉前班「炉前周辺の5Sと作業場の制作」(島袋隆飛、大湾一輝氏)

作業スペースに、分析室上の空きスペースを利用して作業台を設けた。段ボールのなかにバラバラで入っていた備品を、種類やサイズごとに分類し、ひと目で分かるようにした。階段を設置し、分析室上までの移動が近くなった。

○製造部圧延B班「D10・D16の冷却床での製品曲がり対策」

製造部圧延班「ネジテツコ」形状安定化

☆優良賞
製造部製鋼CCMB班「断気BOXによるビレット介在物防止」

シュレッダーチーム 最優秀賞に輝く

第6回改善活動発表会 拓南商事

拓南商事の第6回改善活動発表会が2月15日、沖縄県工業技術センターで開かれた。新型コロナウイルス感染症対策により、参加者は、社員および拓伸会会員企業関係者約100人に制限した。12チームが「代表的な改善事例発表」を行い、審査の結果、リサイクル事業部シュレッダーチーム(テーマ「ダストプラント選別ラインのトラブル改善」)が最優秀賞に輝いた。講評で、川上哲史代表取締役社長は「トラブルが長年多い設備の改善をあきらめず、真剣に続けてきた」と評価した。

発表会では、長嶺巧工場長が開会を宣言し、「頑張つて活動してきた改善の成果をしっかりと発表してほしい。会場の皆さんは、各発表の内容を受けとめて、今後の活動にそれぞれ役立ててほしい」と呼び掛けた。

続いて、古波津昇代表取締役

役会長が「開会あいさつ」に立った。

「仕事をやるからには周辺住民の皆さんに迷惑を掛けてはならない。外に対しては環境負荷の観点、内に向けては

その後、拓南製鐵と拓南商事の技術改善活動を指導している寒河江孝志氏が「拓南商事の未来に向けた人づく」をテーマに講演した。

○八木社長の講評
今回で17回目となる改善活動成果発表大会(実質19年間)は、これまでの取り組みで培われた社員の意識や技術力の高さと実行力で、全発表チームの着眼点やプレゼンテーションも素晴らしかった。審査では甲乙付け難く、受賞に至らなかったチームのテーマ(気づき)も良く、さらに継続し深掘りすれば「すごい成果が出る」ハイレベルな発表内容だけに、今後が楽しみで期待している。

スタッフチーム最優秀賞、加工・品質合同の「統計的手法を用いた溶接実験」は、分析結果のイメージから計画の決定→実験・解析結果→帰属式から結果を予測・条件決定と実験とデータを部署間で連携して改善効果に導いたプロセスが良かった。

現場改善チーム最優秀賞、圧延C班の「精整4ゾーン周りの問題点の撲滅」は、協力企業社員の声で問題点に着目し、ステージの改良により安全性向上・作業効率向上・不具合撲滅へつなげた。現場の声が改善と成果につながった事例として良かった。

時代の変化を見極め、安全・環境問題・生産性向上・働き方改革等の取り組みは、日頃の改善活動が基礎である。100年企業に向けての人材教育や設備投資・付加価値商品や新商品の開発も必要である。拓南グループ全社員が当事者意識を持ち、情報の共有化と連携が大切であり、改善活動も「足下と将来を見据えた」そして「部署間やグループ間・協力企業との連携」の視点で進化発展することを期待する。



最優秀賞2チームと審査員、役員の皆さん

善活動を行い、コスト低減を図りながら、良い品質の製品をつくらせてほしい。今回の発表を楽しみにしている」
司会は、環境室の東江建室長が務めた。

定概念を破り、創造に挑戦してほしい。沖縄県の新しいリサイクルに挑戦しよう」と強調した。

そして、12チームの発表(各約8分間)が次の順で行



最優秀賞はシュレッダーチームに。
(左から)川上社長、喜屋武司氏、仲村海星氏



暑さ対策
中村横之介氏



工務班
伊是名卓氏



工務班
大城裕貴氏



家電
野原朝実氏



モーター
徳田達明氏



銅線
渡慶次憲秀氏



アルミ選別
千葉盛昭氏



炭素化施設
幸喜克幸氏



シュレッダー
喜屋武司氏



開発
桃原絵理花氏



OA
玉城存氏



ELV
知花真一郎氏

各賞発表後、川上社長と寒
河江氏がそれぞれ講評した。
川上社長は、最優秀賞の発

表について「トラブルが長年
多い設備の改善をあきらめ
ず、真剣に続けてきた姿勢が
高い評価となった」と述べた。
また、改善活動のテーマを
選定する際の心掛けについ
て助言した。

「テーマは、ワンポイントで
即決するのではなく、チーム
全員で作業場の問題点を複
数あげ、そのなかから、近隣
住民に迷惑が掛かっている
いか、緊急性があるのか、時
間を掛けて取り組んだ方が
よいのかなど、いろいろな観
点から議論して決めた方が
よい」

一方、寒河江氏は次のよう
に講評した。
「問題点を自分の目で実際に
見て、原理原則を踏まえて考
え、このように直してみよう
とトライする。改善とは、そ
れを成功するまで繰り返す
ことだ。10回繰り返すとイノ
ベーションが起きるといわ
れる。最優秀賞には、人を感
動させるものがあつた」
ではのアイデアで、役員たち
の世代がまったく思いつか
ないような新しいことにチ
ヤレンジしてほしい。その点
で、期待賞を受賞した開発チ
ームに、まさに期待したい」
講評の後、「特別発表」と
して、開発チームの上原大樹
氏が第3回リサイクルアル
ミ展のエントリー作品17作
品を紹介した。審査結果は次
の通り。

最優秀賞「タグマック」垣
花大介氏、優秀賞「ペットボ
ールの改善」

リサイクル事業部アルミ
選別チーム「シルバー作
業場の改善」

リサイクル事業部炭素化
施設チーム「B側回収槽油
移送ポンプラインの改善」

リサイクル事業部家電チ
ーム「ビット、ソケット類
の収納改善」

リサイクル事業部シュレ
ッダーチーム「ダストブラ
ント選別ラインのトラブ
ル改善」

リサイクル事業部炭素化
施設チーム「B側回収槽油
移送ポンプラインの改善」

リサイクル事業部O Aチ
ーム「小モーターのリ
サイクル」

リサイクル事業部炭素化
施設チーム「B側回収槽油
移送ポンプラインの改善」

リサイクル事業部炭素化
施設チーム「B側回収槽油
移送ポンプラインの改善」

リサイクル事業部炭素化
施設チーム「B側回収槽油
移送ポンプラインの改善」

リサイクル事業部炭素化
施設チーム「B側回収槽油
移送ポンプラインの改善」

「今回の各発表を、皆さんは
自分に置き換え、あるいは
自分の所属する部署に置き
換えて聞いてくれただろう
か。きつと改善につながるヒ
ントがあつたはずだ。改善活
動で苦労し、その成果によつ
て仕事を楽に、あるいは体を
安全にしていける取り組みを
今後も継続していこう」

司会は、リサイクル事業部
の新垣翔課長代理が務めた。

「使いたいサイズのネジが
ない」「錆が入ったネジが混
入している」「在庫過多」な
どの問題点を洗い出して分
析し、透明で円筒形の容器に
変更するなどで改善した。

「作業者の暑さ対策に着目
して改善を図った。冷却水の
循環で持続時間をクリアで
きる「COOLEX」を発見

し、試したところ、空調服よ
り優れていると実感した。

「営業部銅線チーム」銅線選
別作業場の作業環境改善
に向けて」(発表・渡慶次
憲秀氏、P C操作・吉村蔵
也氏)

「腰の負担軽減、安全性確保
と生産アップを図るため、作
業場のレイアウト変更、剥離
線の保管台の作成、剥離線機
への被覆線投入の簡素化に
より改善した。

「営業部モーターチーム」モ
ーター解体作業の簡易化
に向けて」(徳田達明氏、吉
村蔵也氏)

「作業環境の改善は、エリア
の区分け等で行った。モータ
ー解体工程の簡素化・整備見
直しは、T P Mでの助言「モ
ーターの作業を人ではなく
重機で実施を参考に進めた。
○リサイクル事業部家電チ
ーム「ビット、ソケット類
の収納改善」(野原朝実氏、
前田久喜氏)

大量の廃家電を手解体で
処理するため、現場作業員に
とって使いやすい工具収納

へ改善を図った。マグネット
ツールに着目し、マグネット
式工具収納を採用した。

「リサイクル事業部シュレ
ッダーチーム」ダストブラ
ント選別ラインのトラブ
ル改善」(喜屋武司氏、仲
村海星氏)

S D Pにおいて風力選別
機からG S 30比重選別機ま
でのトラブルが非常に多い。
今年度は、風力選別機のロー
タのつまりを防止するため、
エアノズルの増設で改善し
た。

「リサイクル事業部炭素化
施設チーム」B側回収槽油
移送ポンプラインの改善」

(幸喜克幸氏、仲宗根英樹
氏)

トルで作った底面給水鉢」上
原大樹氏、優良賞「車の小物
入れ」小橋川雅美氏。

発表会のしめくりに、平
田要副社長が「閉会あいさ
つ」をした。

「今回の各発表を、皆さんは
自分に置き換え、あるいは
自分の所属する部署に置き
換えて聞いてくれただろう
か。きつと改善につながるヒ
ントがあつたはずだ。改善活
動で苦労し、その成果によつ
て仕事を楽に、あるいは体を
安全にしていける取り組みを
今後も継続していこう」

司会は、リサイクル事業部
の新垣翔課長代理が務めた。

「今回の各発表を、皆さんは
自分に置き換え、あるいは
自分の所属する部署に置き
換えて聞いてくれただろう
か。きつと改善につながるヒ
ントがあつたはずだ。改善活
動で苦労し、その成果によつ
て仕事を楽に、あるいは体を
安全にしていける取り組みを
今後も継続していこう」

司会は、リサイクル事業部
の新垣翔課長代理が務めた。

「今回の各発表を、皆さんは
自分に置き換え、あるいは
自分の所属する部署に置き
換えて聞いてくれただろう
か。きつと改善につながるヒ
ントがあつたはずだ。改善活
動で苦労し、その成果によつ
て仕事を楽に、あるいは体を
安全にしていける取り組みを
今後も継続していこう」

司会は、リサイクル事業部
の新垣翔課長代理が務めた。

「今回の各発表を、皆さんは
自分に置き換え、あるいは
自分の所属する部署に置き
換えて聞いてくれただろう
か。きつと改善につながるヒ
ントがあつたはずだ。改善活
動で苦労し、その成果によつ
て仕事を楽に、あるいは体を
安全にしていける取り組みを
今後も継続していこう」

司会は、リサイクル事業部
の新垣翔課長代理が務めた。

「今回の各発表を、皆さんは
自分に置き換え、あるいは
自分の所属する部署に置き
換えて聞いてくれただろう
か。きつと改善につながるヒ
ントがあつたはずだ。改善活
動で苦労し、その成果によつ
て仕事を楽に、あるいは体を
安全にしていける取り組みを
今後も継続していこう」

司会は、リサイクル事業部
の新垣翔課長代理が務めた。

「今回の各発表を、皆さんは
自分に置き換え、あるいは
自分の所属する部署に置き
換えて聞いてくれただろう
か。きつと改善につながるヒ
ントがあつたはずだ。改善活
動で苦労し、その成果によつ
て仕事を楽に、あるいは体を
安全にしていける取り組みを
今後も継続していこう」

司会は、リサイクル事業部
の新垣翔課長代理が務めた。

「今回の各発表を、皆さんは
自分に置き換え、あるいは
自分の所属する部署に置き
換えて聞いてくれただろう
か。きつと改善につながるヒ
ントがあつたはずだ。改善活
動で苦労し、その成果によつ
て仕事を楽に、あるいは体を
安全にしていける取り組みを
今後も継続していこう」



RA展の最優秀賞「タグマック」
(垣花大介氏)



受賞者と審査員の皆さん

初代「最優秀賞」

防錆事業所めつき班

初の改善活動成果発表大会 拓南製作所

拓南製作所は2月9日、第1回改善活動成果発表大会を吉の浦会館大ホールで開催した。全社員および協力企業社員、拓伸会会員企業関係者が参加した。現場改善チーム(12チーム)が発表を行い、審査の結果、防錆事業所めつき班(テーマ「めつき白煙吸い込み能力向上活動」)が最優秀賞に輝いた。古波津昇代表取締役会長は講評のなかで全チームに対し「現状を把握し、改善に取り組む姿勢に進歩を感じた」とたたえた。

初の改善活動成果発表大会は、勢理客耕司常務取締役の「開会あいさつ」で始まった。「初めての取り組みだけに、発表に関わった皆さんは、拓南製鐵や拓南商事の例を参考にしたり、思ったように改善が進まずに悩んだり、発表資料の作成に苦労をしてい



最優秀賞はめつき班に。(左から)本部社長、比屋根元太氏、新垣嗣人氏

た。しかし、この改善活動はきつと、皆さんの力として蓄えられていく。やり遂げる喜びを感じてもらいたい。本日は、各チームの発表にしっかりと耳を傾け、温かく見守っていただきたい」

その後、下記の順で12チームの発表(各約5分間)が行われた。

○建設鐵構事業所鐵構課「整理整頓・作業効率、若手社員の知識向上」(発表・森山大貴氏、P.C操作・栗國安寿氏)

工場作業における不具合など問題点を洗い出し、若手社員の知識向上を図るワンポイントレッスン、道具倉庫内の整理整頓などを行った。

○建設鐵構事業所建設部「電子黒板の導入」(赤嶺一也氏、知念陽介氏)

20件にのぼった問題点のなかで、提出する書類に使用する写真の撮影ミス、取り忘れ等の改善に取り組み、「蔵

衛門クラウド」の導入を図った。

○建設鐵構事業所与那城出張所「工具使用時の効率化(3定への取り組み)」(喜納司氏、新里翼氏)

工具取り出しの効率化を目指し、タイム測定で改善点をみつけ、高頻度使用工具の配置を工夫するなど、3定化(定量・定位・定品)を図った。

○統括本部営業部「販売促進活動」(渡慶次美幸氏、與古田圭氏)

事業所間の垣根を乗り越えて問題点を洗い出し、活用されていない製品案内ツールを、繰り返し気軽に製品案内ができるツールへと改善した。

○統括本部業務部「複合機のコスト削減」(山城貴子氏、糸数勝浩氏)

2色カラー等でも印刷できるパソコン設定方法の周知などにより、フルカラーの使用枚数と使用料金を全使用枚数各30%減の目標を達成した。

○防錆事業所施設管轄係「めつきクレーン走行装置滑り改善」(徳門孟氏、末吉常高氏)

生産性の向上を目指し、走行装置の滑りによるロスの改善を図った。走行装置にシ

ープを追加し、ワイヤーとの接触面を増やすことで改善した。

○防錆事業所めつき班「めつき白煙吸い込み能力向上活動」(比屋根元太氏、新垣嗣人氏)

めつき時の白煙が工場外まで漏れ出ていた。ダクトを増設後、原因(集塵灰の堆積)を究明して清掃し、定期点検ができるように改良もした。

○防錆事業所品質管理係「りん酸亜鉛処理ガス使用量削減」(里西潤哉氏、宮城泰雅氏)

ボイラーによるりん酸槽と湯洗槽の温度管理に改善の余地があった。フルシートでカバーを作成し、保温を目的に槽全体を覆うことで改善した。

○フォーミング事業所伸線班「伸線機石灰液ポンプ動作不良対策」(山城明氏、大城健氏)

伸線工程の石灰塗布で、溶けきれない石灰が槽にたまってポンプトラブルを生じさせた。ポンプ本体をワイヤーで吊り上げる方法で改善した。

○フォーミング事業所溶接金網班「直線切断結束作業の改善」(国古真琴氏、宮城輝久氏)

巻き番線置き場が1カ所しかなく、結束線を取りに行くと不安な場所があり、さらに工具が定位置化されておらず、その改善を図った。

○フォーミング事業所造管加工班「工具置き場の2S」(岸良正年氏、仲道正也氏)

工具置き場の整理整頓が



鐘構課 森山大貴氏

最優秀賞

営業部 渡慶次美幸氏

最優秀賞

めつき班 比屋根元太氏

最優秀賞

溶接金網班 国古真琴氏

建設部 赤嶺一也氏

優良賞

業務部 山城貴子氏

優良賞

品質管理係 里西潤哉氏

優良賞

造管加工班 屋良正年氏

優良賞

与那城出張所 喜納司氏

奨励賞

施設管轄係 徳門孟氏

奨励賞

伸線班 山城明氏

奨励賞

鉄筋事業所 盛根康彦氏

奨励賞

無駄という宝は磨けば輝く

12チームの発表後、特別発表として拓南製鐵技術改善活動発表大会(加熱炉リジエネ用セラミックボール入替えの簡素化)のDVDを上映した。

その間に、古波津会長、本部紹吉代表取締役社長、仲松庸一郎専務取締役、奥平勉専務取締役、勢理客常務による各賞の審査が行われた。

その後、古波津会長が講評した。「地域への配慮も含めてしっかりと現状を把握し、改善に向けて取り組んでいる発表を聞いて、皆さんの進歩を感じた。各チームがすべて最優秀賞をもらったつもりでいて

なされておらず、工具・備品の選別、使いやすい配置、古い表示の貼り出し等により、工具を探す時間の短縮が図られた。

○鉄筋事業所「出荷作業の効率化」(盛根康彦氏、栗原健斗氏)

鉄筋の積み込み作業に時間がかかり、メジャーで測る手間を省くためメモリを床に表示した。時間の短縮につながり、長さの間違ひもなくった。

☆最優秀賞
防錆事業所めつき班「めつき白煙吸い込み能力向上活動」

☆優秀賞
統括本部営業部「販売促進活動」

☆優良賞
統括本部業務部「複合機のコスト削減」

建設鐵構事業所与那城出張所「工具使用時の効率化(3定への取り組み)」
防錆事業所施設管轄係「めつきクレーン走行装置滑り改善」
鉄筋事業所「出荷作業の効率化」

その後、奥平専務が「開会あいさつ」をした。運営スタッフをねぎらい「1回目にしてはとても素晴らしい内容だった」と全チームをたたえ、次のように発表大会を締めくくった。

「せっかく改善したのだから、元の状態に戻らないようにしてほしい。元の状態に戻らないようにするところまで改善活動の一環だ。改善には終わりがいい。改善に向けた宝が現場にはたくさん落ちている。無駄という宝は磨けば輝く。今後も、積極的に改善活動を推進していこう」

司会は、業務部の喜友名千加子氏が務めた。

本誌トップへ掲載される人物の肩書などは記事の史料として活用するため原則として当日のものとし、ます。

2つの節目 意義ある年に

年頭祈願・初荷式

拓伸会

1月

拓伸会および協力企業合同による恒例の年頭祈願が1月4日、拓南製鐵本社中部事業所の伏見稲荷・産業之宮前で行われた。

会場には、拓南製鐵、拓南商事、協力企業の社員が参加し、式典の模様を会員企業へリモート配信した。

式典では、沖宮の土地健太郎が玉串奉奠を行った。



土地神職による修祓の儀

100年企業の下地づくりを

拓伸会会長 古波津昇

今年、拓南商事設立70年、創業者・古波津清昇生誕100年という節目の年だ。拓伸会にとって意義のある年になる。

しかし、県産品愛用や県経済発展についての考え方に邪魔をするような抵抗勢力がある。電力料金の値上げなどエネルギー高騰の影響も顕著に表れてきている。さまざまなかたちで意識の統一、ご協力を皆さんにお願いすることがあると思う。

拓伸会設立70年を契機にいま、100年に向けた企業

攻めの経営をしていく

拓南製鐵代表取締役社長 八木実

今年は、創業者の生誕100年、拓伸会、拓南商事の創立70年を迎える年だ。拓伸会

は、沖繩の復興、県経済発展のために、製造業の先駆者として社会に貢献している企業が、その事業に参加していることを誇りに思っている。昨年、コロナ禍のなか、皆さんが感染防止を徹底したお陰で、事業を無事に継続

2つのプロジェクト始動

拓南商事代表取締役社長 川上哲史

昨年は、各廃棄物の入荷量や処理数量が全般的にとも多い年だった。そのなかで大型設備の事故も起きたが、社員の皆さんは、関係各社の協力のもと、しっかりと対応してくれた。あらためて感謝を申し上げる。



古波津会長の年頭訓示

を続けていく。今年1年間、無災害で、皆さんと皆さんのご家族が幸せになるように、また、沖縄経済の発展に寄与できるような経済活動を進めることをお願いして、年頭訓辞とさせていただきます。

拓伸会県外3社も尽力

拓伸商事(大阪)代表取締役社長 大城秀政

昨年は、ロシアのウクライナ侵攻の影響で資源やエネルギーの高騰があり、当社にとつて大いに気掛かりな輸送費コストは1.5倍に近づいている。

昨年の当社は、ESG経営について手探りしながら勉強を続け、できることからひとつひとつ行動することが大事だと考えた。窓に遮熱フィルムを貼ったり、照明のLED化などから始め、従業員の意識改革につなげた。人材育成については、作業の標準化に取り組んだ。今年から

製造原価をいかに抑えるか

拓南製作所代表取締役社長 本部紹吉

昨年はコロナ禍で、県内観光業界の不振に引きずられるように建設業界も影響を受け、建築着工面積は減少し、需要も低迷した。しかし、今年は、ウイズコロナへ移行している観があり、長らく停滞していた案件が動き出す

のを期待している。

当社が最も危惧しているのは4月からの電力料金の値上げと、昨年が続いている亜鉛原料価格の高騰だ。いかにして製造原価を抑えていくか、役職員ひとりひとりが知恵を絞って取り組んでほしい。

今年の新たな事業としては、木造住宅の基礎ユニット鉄筋加工と、港湾漁港向けの車止め商品の製造がスタートする。車止め商品は、昨年末に県産品の認定を取得し、大宜味村の塩屋漁港に第1号の納品が決定している。

創立50周年の今期は、無事故無災害を継続中だ。合併後、1度も無事故無災害を達成していないだけに、今期こそ達成させようという気構えで取り組んでほしい。



初荷式

大きな拍手で初荷式

式典はその後、安全衛生統括責任者・親富祖茂部長による「1月の安全重点目標」の発表、知念正元専務による「社訓唱和」が行われ、ゼロ

災害委員会の富山瑞樹委員に

よる「ゼロ災害唱和」で締めくくられた。

終了後、初荷式が行われた。参加者は、伏見稲荷・産業之宮前から正門周辺へ移動し、原料(スクラップ)5台

の入荷、鉄筋3台・コイル2台の出荷を大きな拍手で祝った。

年頭祈願の司会は拓南本社業務部の喜屋武智部長、初荷式の司会は拓南製鐵営業部の久保田祥輝主任がそれぞれ務めた。

拓伸会県内5社を認証

県所得向上応援企業認証制度

沖縄県は2月10日、従業員の所得向上に積極的に取り組む企業を応援する「県所得向上応援企業認証制度」の第2回認証式とシンポジウムを県立博物館・美術館で行った。新たに認証されたのは、拓伸会県内5社（拓南本社、拓南製鐵、拓南商事、拓南製作所、西原グリーンセンター）を含む7社。そこで、拓南本社人事部長の翁長辰伍部長に同制度の特徴、認証の意義などについて寄稿してもらった。

法令遵守、適切な事業運営の証

拓南本社人事部長 翁長辰伍

2月10日に開催された第2回沖縄県所得向上応援企業認証式にて、拓伸会県内5社が認証を受けました。

所得向上応援企業認証とは、従業員の所得向上に積極的に取り組む企業を県が認証する令和4年4月に創設した制度です。本制度の認証基準として、過去3年間の平均給与の増加率や、向こう3年間の昇給予定など、従業員の所得向上に對し、企業努力として社員に還元したことを評価する項目があり、拓伸会県内5社は項目達成でしたので、認証をいただいた次第です。認証を受けた企業は認証マークをWebや名刺等で

2月

使用できるほか、奨学金返還支援事業における補助割合・補助上限の引き上げが行えるなどの支援にも活用できます。

認証取得の条件には「法令に基づき適切に事業運営を行っている企業」とありますので、さまざまな認証を取得している拓伸会は法令を遵守し、適切な事業運営を行っているともいえます。その影響もあり、良い人材を採用することにつながっております。

また、この制度には奨学金返済を行っている社員への支援も追加されており、福厚の一環として早急に枠組みや規定をつくっていったらと考えております。

今後も引き続き、取得できそうな認証制度には積極的にチャレンジしていきたい。働きやすい組織づくりに貢献していけたらと思います。

「ネジテツコン先組み工法」見学会

東京鐵鋼 拓南製鐵

2月

拓南製鐵は2月2日、東京鐵鋼とともに「建築工事の省力化実験実証見学会」を豊見城市で開催した。地元2紙も経済面で取り上げた。拓南製鐵の川村剛司課長代理に見学会の狙い、見学者の反応、抱負などについて寄稿してもらった。

施工性の良さをアピール

拓南製鐵営業課長代理 川村剛司

東京鐵鋼と拓南製鐵は2月2日、合同による「建築工事の省力化実験実証見学会」を豊見城市豊崎にて実施しました。前回は2018年5月でしたので約5年ぶりとなります。

ネジテツコン機械式継手を用いて、柱・梁部材を先組して取り付ける「鉄筋プレハブ工法」のほか、5年前には展示していたなかったネジテ「ネジテツコン」の商品名は

鉄筋施工でコスト減

新工法見学会

2月3日付

拓南製鐵と東京鐵鋼は2月3日、豊見城市で「ネジテツコン」の施工性を実証する見学会を開催した。この日は、地元2紙も取材した。拓南製鐵の川村剛司課長代理に見学会の狙い、見学者の反応、抱負などについて寄稿してもらった。

鉄筋組み立て効率化

豊見城で見学会、人手不足解消へ

2月3日付

拓南と東京鐵鋼「ネジテツコン」工法。鉄筋を組み立てる作業が、従来の鉄筋工法に比べて、作業時間が約半分に短縮された。また、作業員の負担も軽減された。拓南製鐵の川村剛司課長代理は、この工法が、人手不足解消に大きく貢献するとしている。

豊見城で見学会、人手不足解消へ

拓南製鐵と東京鐵鋼は2月3日、豊見城市で「ネジテツコン」の施工性を実証する見学会を開催した。この日は、地元2紙も取材した。拓南製鐵の川村剛司課長代理に見学会の狙い、見学者の反応、抱負などについて寄稿してもらった。



(左から) 西原グリーンセンターの比嘉利夫副社長、拓南製作所の本部紹吉社長、玉城デニー知事、拓南本社の古波津昇社長、拓南製鐵の八木実社長、拓南商事の平田要副社長が認証式で登壇

公開シンポも開催され、古波津会長が登壇
＝琉球新報2月11日付



資格取得で所得向上へ

県「応援企業認証制度」

従業員学び直しでシンポ

代表者必要性訴え

新たに7社を認証

沖縄タイムス 2月12日付

拓南製鐵は2月12日、県庁で「従業員学び直しで所得向上」をテーマにしたシンポジウムを開催した。この日は、地元2紙も取材した。拓南製鐵の川村剛司課長代理に見学会の狙い、見学者の反応、抱負などについて寄稿してもらった。

拓南製鐵は2月12日、県庁で「従業員学び直しで所得向上」をテーマにしたシンポジウムを開催した。この日は、地元2紙も取材した。拓南製鐵の川村剛司課長代理に見学会の狙い、見学者の反応、抱負などについて寄稿してもらった。

拓南製鐵は2月12日、県庁で「従業員学び直しで所得向上」をテーマにしたシンポジウムを開催した。この日は、地元2紙も取材した。拓南製鐵の川村剛司課長代理に見学会の狙い、見学者の反応、抱負などについて寄稿してもらった。

拓南製鐵は2月12日、県庁で「従業員学び直しで所得向上」をテーマにしたシンポジウムを開催した。この日は、地元2紙も取材した。拓南製鐵の川村剛司課長代理に見学会の狙い、見学者の反応、抱負などについて寄稿してもらった。

拓南製鐵は2月12日、県庁で「従業員学び直しで所得向上」をテーマにしたシンポジウムを開催した。この日は、地元2紙も取材した。拓南製鐵の川村剛司課長代理に見学会の狙い、見学者の反応、抱負などについて寄稿してもらった。

拓南製鐵は2月12日、県庁で「従業員学び直しで所得向上」をテーマにしたシンポジウムを開催した。この日は、地元2紙も取材した。拓南製鐵の川村剛司課長代理に見学会の狙い、見学者の反応、抱負などについて寄稿してもらった。

拓南製鐵は2月12日、県庁で「従業員学び直しで所得向上」をテーマにしたシンポジウムを開催した。この日は、地元2紙も取材した。拓南製鐵の川村剛司課長代理に見学会の狙い、見学者の反応、抱負などについて寄稿してもらった。

拓南製鐵は2月12日、県庁で「従業員学び直しで所得向上」をテーマにしたシンポジウムを開催した。この日は、地元2紙も取材した。拓南製鐵の川村剛司課長代理に見学会の狙い、見学者の反応、抱負などについて寄稿してもらった。

拓南製鐵は2月12日、県庁で「従業員学び直しで所得向上」をテーマにしたシンポジウムを開催した。この日は、地元2紙も取材した。拓南製鐵の川村剛司課長代理に見学会の狙い、見学者の反応、抱負などについて寄稿してもらった。



非常食2度目の寄贈

福祉団体へ 拓南商事

12月

拓南商事は12月13日、地元のおうま市社会福祉協議会が中心となっているボランティアセンターへ備蓄食料品（非常食）を贈呈し、写真を残した。

これは、同社のBCP（事業継続計画）活動の一環で、賞味期限が切れる前に備蓄食料品を提供し、市内の子ども食堂、貧困世帯などに役立ててもらおうというもの。昨年5月に初めて実施した。2度目の今回は、非常食としていた「ホーメルベジパルボーキシチュー」（16箱×12袋）を提供した。



西原GCでゴルフ初体験

関東一高の修学旅行

1月

東京都江戸川区にある関東第一高等学校の沖縄修学旅行で、西原グリーンセンターでのゴルフ実習が日程(1月25、26日)に組まれ、生徒たちが「ゴルフ初体験」を大いに楽しんだ。来場した修学旅行生はスポーツ科の生徒計78人で、25日はハンドボール部10人、野球部24人の34人。26日はバドミントン部9人、サッカー部35人の44人。体験型修学旅行を初めて受け入れた西原GCの山内雅文副支配人にレポートを寄稿してもらった。

修学旅行生受け入れ顛末記

西原グリーンセンター副支配人 山内雅文

関東第一高等学校の修学旅行は1月23日に沖縄入りし、27日に帰京するスケジュールでした。西原GCでのゴルフ実習は25日と26日に組まれ、両日も天候に恵まれました。

社員を配置し、円滑に、かつ危険予知を行いながら進めました。

乙幡和弘教頭に「修学旅行でなぜゴルフ体験を？」と伺ったところ「スポーツ科の生徒たちに部活動とは違う競技をさせることで、何かのきっかけや気づきにつながるんじゃないか」という思いから「だそうです」。

ちなみに、同校はこれまでゴルフ実習を行っていたそうです。コロナ禍以前はハワイで、1日がかかりで18ホール(パー72)をプレーしたそうです。



生徒たちのほとんどが、ゴルフ初体験でした。レンジでの実習では力まかせにクラブを振り回すので、空振りをする生徒が多数いました。しかし、さすがにスポーツ科だけあって、レンジ練習終了の頃にはボールに当たるようになっていました。

コースをプレーしていた平形京太君、股野優大君に感想を聞いてみました。

「難しいけど、楽しい。力加減が少し分かってきた」(平形君)

「ゴルフは初めてで、最初はぜんぜん当たらなかったけど、3ホール目から少し当たるようになってきた」(股野君)

西原GCにとって、体験型修学旅行の受け入れは今回が初めてでした。まず苦労したのは、44人分のレンタルクラブの確保でした。初日は左利きが6人いました。左利き用クラブは希少で、近くのコースからお借りして対応しました。

受け入れにあたっては、大型バスの駐車場確保、レンジ打席の確保(2階貸し切り)、コース来場90分前から

の一般受付ストップ、コース内貸し切りなど、あらゆることを想定して準備しました。体験型修学旅行を県内のゴルフコースが受け入れた例を私は知りません。県内では珍しい例になったと思います。

受け入れ準備は大変でしたが、楽しそうにプレーをしている生徒たちの姿が新鮮で「受け入れてよかった」と思いました。今回のゴルフ実習が、将来、ゴルフを始めきつかけになってくれれば幸いです。

このような機会をいただいた近畿日本ツーリストの新見高真様に感謝いたします。立ち合っていた同社の橋本裕子様から「来年も」という声が掛かり、比嘉利夫副社長は「よろしくお願いします」と返答していました。快く受け入れたいと思います。

*修学旅行生にバックを1個ずつプレゼントしました。中身は、ゴルフボール5個(当社から寄贈)、グローブ(ゴルフパートナー・ダンロップから寄贈)、ドリンク(コカコーラから寄贈)です。

「もう一度、3Sに注力しよう」

社長安全パトロール 拓南製作所

12月

拓南製作所は12月23日、年末年始無災害運動の一環として社長安全パトロールを実施した。

フォーミング事業所お宮前に各事業所管理職等18人が集合し、西原誠総括安全衛生管理者による趣旨の説明

のあと、本部紹介代表取締役社長が次のように呼び掛けした。

「前回のパトロールで改善したところが引き続き維持されているか、新たに改善すべきところがあるか、皆さんの指摘事項が上がった。内容をまとめ、回覧するので、改善や対策も含めて協力をお願いする」と述べた。

拓南本社の長濱直次顧問は「社長パトロールを1年ぶりに参加した。全体的に整理整頓を頑張っているのが伝わってきた。引き続き、3S活動を行ってほしい」と感想を述べた。



本部社長は「いくつかの事業所の部署で、整理整頓が課題だと思った。もう一度3Sに力を入れる必要がある」と述べた。



る。特に防錆事業所めつき操作室は見学コースにもなっている。きれいな環境でお客様を迎え入れられるように優先的に3Sを行い、維持するように心掛けてほしい」と述べた。

美化活動で地域貢献

拓南製作所は社長パトロールの前に、総出で、会社前の海岸沿い、砂浜や緑地帯のゴミ拾いや草取りを実施した。

肌寒い中、30分ほどの美化活動で約40袋のゴミを回収した。

AED取り扱い講習会実施

拓南製作所

12月

拓南製作所は12月7日、建設鉄構事業所2F多目的ホールでAEDの取り扱い講習会を実施した。

AED購入先である株式会社オカノの派遣指導者たち(2人)が、人命救助を実践できるように指導した。

全社員をA班(建設・鉄筋約50人)、B班(フォーミング約50人)に分けて、午後1時から休憩を挟んで各1時間講習会を実施した。

入社1年目の玉城里吉氏(建設鉄構事業所)は、次のように感想を述べた。

「AED講習は以前にも受けたことがあったが、実際に機器を使用するのは初めてで、必要だと感じた」



製鐵で「企業出向き接種」

県内初 県広域ワクチン接種センター

12月

沖縄県広域ワクチン接種センターは12月14日、21日にオミクロン株対応新型コロナウイルスワクチン接種を推進するため、拓南製鐵本社中部事業所(管理棟2階会議室)で「企業出向き接種」を初めて実施した。拓伸会会員企業の社員96人に加えて、近隣住民137人の計233人が接種を受けた。

対象は18歳以上で、前回の接種から3カ月経過した3、4、5回目接種の人たち。ワクチンはモデルナ製。地元紙では「琉球新報」(12月18日付)が「企業出向き接種」の模様を取り上げ、「4回目の接種を受けた男性(44)」のコメント「3回目は沖縄市農研研修センターで

「自分のために、みんなのために」

拓南本社顧問 長濱直次

拓伸会ワクチン接種プロジェクトチーム(TVPT)は、古波津会長指示の下に、社員と家族のワクチン接種を円滑に実施する目的で構成された拓伸会特別チームです。

TVPT会議は、昨年11月からのオミクロン株への置き換えで、年末年始に陽性者が急増すると予測し、沖縄県と調整を行い、県の協力の下、県内初の「企業出向き接種」会場として12月に実現することができました。

接種会場でのエピソードを紹介します。うるま市の学生さんが次のような感想を語ってくれました。

「2月に受験があるので自宅近くに申し込んだのですが、予約がいっぱいで受けられず不安でした。今日、拓南で受けられて良かったです。安心して勉強ができます」

私はその感謝の言葉が忘れられません。「自分のために、みんなのために」の社訓が実践できたとうれしく思いました。



「かもしれない」運転を

交通安全講話 拓南製鐵

12月

拓南製鐵は12月20日、沖縄警察署交通対策課企画係の仲田健彦部長、沖縄地区交通安全協会の照屋裕作事務局長を招き、本社中部事業所2階会議室で交通安全講話を行った。24人が受講した。

講話の中で、仲田巡査部長は、忘新年会の時期だけに飲酒運転をしないよう注意喚

起をした。また「『だろ?運転』ではなく『かもしれない運転』を」と呼び掛けた。二輪車ライダーに向けて、すり抜け等の交通ルール違反について触れた。

閉会のあいさつに立った知念正元専務取締役は「参加者のほとんどが運転免許を取得したばかりの新人社員で、運転に慣れてきた頃だけ

新垣専務と比嘉常務が「福は内!」

波上宮の節分祭

2月

波上宮(那覇市若狭)で2月3日、節分祭が開催された。卯年生まれの年男・年女11人が「福は内、鬼は外」と豆をまき、そのメンバーのなかに拓南本社の新垣博史専務取締役と比嘉秀親常務取締役の姿があった。参拝客ら約200人が参加し、手を伸ばして豆やお菓子を受け取った。

新垣専務「写真右」の感想。昨年、本社清め祓い後に、

とご家族、そして自分自身の健康と安全を祈願しました。福豆は、遠くにいらつしやる方にもと笑顔と一緒に届けました(マスク越しですが)。最高の思い出になりました。ありがとうございます」

比嘉常務の感想。「還暦記念の最高な思い出になりました。健康第一・安全第一、を心がけ、充実の日々をかさねていきたいです。ありがとうございます」



社内成人式で20歳をお祝い

拓南製鐵 拓南商事 拓南製作所

2月

拓南製鐵、拓南商事、拓南製作所は社内成人式をそれぞれ開き、新成人社員を祝福した。20歳を迎えた新成人社員は3社で計18人(拓南製鐵7人、拓南商事4人、拓南製作所7人)。

「社会人として自覚」 拓南製鐵

拓南製鐵は2月15日、社内成人式を行い、記念品としてシートベルトバッグの贈呈を行った。

祝福された新成人社員は、玉寄良太さん、島袋陸飛さん、大村隆仁さん、比嘉秀斗さん、上原幹太さん、富山雄大さん、大城勇斗さんの7人。席上、八木実代表取締役社長が次のように激励し、祝福した。

「新成人の皆さん、おめでとうございます。大人として自立へのスタート、社会人として目標を立てて夢に向かってのスタートです。『千里の行も足下より始まる』という言葉があります。常に前向きに努力し、そして、感謝の気持ちを忘れないでください。一生懸命頑張っている若い皆さんの飛躍を期待しています」

一方、新成人社員を代表して島袋陸飛さんは「新成人として、社会人として自覚し、これからも仕事に励んでいきます」と力強くあいさつした。

「去年よりも責任をもって」 拓南商事

拓南商事は2月9日、社内成人式を行い、記念品としてシートベルトバッグの贈呈を行った。

祝福された新成人社員は、平川秀人さん、玉城存さん、金城良希さん、神村拓海さんの4人。席上、川上哲史代表取締役

社長が「皆さんはまだ20歳、忍耐が必要な時もある。『創意と誠意 勤勉努力』という社訓を時々思い出して、経験を積みながら頑張ってほしい」と激励した。

一方、新成人社員を代表して玉城存さんは「成人を迎えて大人の仲間入りをしまし



【拓南商事】左側から神村拓海さん、平川秀人さん(川上社長を挟んで)、金城良希さん、玉城存さん



【拓南製鐵】後列左側から木村隆仁さん(八木社長を挟んで)、大城勇斗さん、玉寄良太さん、前列、富山雄大さん、上原幹太さん、島袋陸飛さん

金属疲労勉強会を振り返って

1月号で紹介した通り、拓南本社は11月から1月までオンライン方式により6回、「金属疲労勉強会」を開いた。対象者は、拓南製鐵、拓南商事、拓南製作所、薩南物産の4社技術系社員で、拓南会使用しているクレーン、移動式クレーン、機械設備の保守に加えて、その基本となる金属の性質、点検方法、改善方法および法令、災害事例について学んだ。延べ1200人を数えた参加者のうち4人に感想を寄稿してもらい、拓南本社の長濱直次顧問に総括を依頼した。

強度計算の大切さを感じた

拓南製作所建設鐵鋼事業所工務課係員
榎原美乃



私は、琉球大学工学部を卒業して2022年4月に入社した1年目の社員です。現在CADオペレーター、図面・加工指示書作成等の仕事を担当しています。勉強会に参加して、疲労損傷の具体例や計算方法、浴接補修など多くのことを学ぶことができました。

演習の軸の疲労強度計算

講義は、とても難しく感じましたが、自分自身で強度計算をすることで、計算方法や安全率などについての理解が深まり、安全な設計をするために強度計算は非常に大切であると感じました。

今後、勉強会で学んだことを仕事で生かしていけたらと思います。

金属の特性、疲労の特性を再認識

拓南製作所建設鐵構事業所所長



金属疲労勉強会に参加するにあたり、ふだんの業務において密接に関わっている金属の特性を知ること、さらに良い製品づくりにつなげていけると考えました。勉強会では、金属の特性を再認識することで材質を選定する判断の基準を知り、また、疲労の特性を学ぶことでこういった状況で破断するか理解できました。補修溶接については、溶接の仕方や特徴を学び理解することで、金属疲労からの倒壊事故等を未然に防ぐ取り組みを進めていきたいと思います。

今回学んだことを業務に取り入れ、少しでも会社の発展に役立てたいと思います。

新設備製作の際の参考にも

拓南製鐵技術部工務班課長
長谷川雅



私は2013年に入社し、10年目を迎えました。現在は技術部で工場設備の修繕や更新、製作といった機械設備に関する仕事に携わっています。

また、設備を新しく製作する際に考慮しなければならないポイントや疑問点についても知ることができ業務の参考になる勉強会で

故障事例と対策が刺激に

拓南商事工務部次長



今回の金属疲労勉強会では、金属の亀裂、破断のメカニズムなど、工場を保全する立場として必要な知識を学べました。金属疲労Ⅱ寿命と思っていましたが、設計上での材料強度と負荷の安全係数のバランス、構造上で負荷の分散方法などを知ることができました。

仕様の確認や、故障発生時にメーカー設計担当者とコミュニケーションの必要性も感じました。特に溶接構造物の故障事例と対策は建設機械の亀裂補修などで現場作業者や業者の作業を見て知っているつもりでしたが、まだまだ不十分であったことを実感しました。

■**総括**

拓伸会技術の蓄積になる

拓南本社顧問 長濱直次

クレーンポストの倒壊などクレーン災害や事故のニュースは絶えません。拓伸会では2022年5月に全社の所有するクレーン等123基台について、緊急アンケート調査を行い、調査結果を反映させた教本を作成しました。

さらに深掘りして、今回は金属性質、溶接、関係法令そして災害等の事例についての勉強会を開催しました。受講者は技術系社員を主に、1月から1月までの間に、延べ120人を数える大勉強会となりました。

この成果は拓伸会技術の蓄積になると思います。なお勉強会資料はアーカイブとしていつでも閲覧できるようにしています。

結びにこの多忙のところ、TPMでお力添えをいただいたという寒河江孝志先生、製作所の仲松庸一郎専務には講師を担当していただきました。感謝申し上げます。

たので、去年よりも責任をも
って今年も頑張つて行きた

「積極的に頑張る」
拓南製作所

拓南製作所は2月3日、社内式を開いた。

祝福された新成人社員は、西川勇輝さん、銘師彦志さん、泉州凌さん、國吉健友さん。

拓南製作所は2月3日、社内式を開いた。

祝福された新成人社員は、西川勇輝さん、銘師彦志さん、泉州凌さん、國吉健友さん。

人、比嘉良三さん、知佐惣雅さん、次郎久竜玖さんの7人。席上、本部紹吉代表取締役社長が次のようにお祝いの言葉を述べた。

「自分の人生をただ過こすのではなく、夢や目標を持って生活するように心掛けてください。仕事においても、目標を持って日々の業務に取り組むことにより、成果が生

て銘阿彦志さんは、次のよう
に挨拶しました。

「入社3年目となり、段々と仕事に慣れてきて、作業を覚えてきました。これから、資格取得など、積極的に頑張っていきますのでよろしくお願いします」

新成人社員には記念品が贈呈された。

い」と抱負を述べた。



【拓南製作所】前列左側2人目から知花悠雅さん、次呂久竜玖さん、國吉健友さん、比嘉良斗さん、泉川凌さん、銘苅彦志さん、西川勇輝さん。

TOPICS 速報!

第34回合同工場見学会 開催

2月

ゼロエミッソン社会の実現に貢献する拓仲会の活動に触れてもらおうと拓南製鐵・拓南商事の第34回合同工場見学会が2月24日、感染症予防対策を講じて行われた。

見学者（直前までの予約数406人）は、拓南製鐵本社・中部事業所管理棟前の特設展示場にて受付を済ませた後、拓仲会各社の業務を紹介する展示ブースを見学し、事前

見学者(直前までの予約数
406人)は、拓南製鐵本社
中部事業所管理棟前の特設
会場で受付を済ませた後、拓
伸会各社の業務を紹介する
展示ブースを見学し、事前

経済担当記者の姿もあった。
同日は、沖縄テレビ、建設
新聞なども取材に訪れた。
＊詳報は、次回5月号に掲載
予定。



(左から)古波津会長から説明を受ける
日銀那覇支店の飯島浩太支店長と沖縄
労働局の西川昌登局長



翁長辰伍部長

「育休の取得をいつ決めましたか？」
「人事部として男性育休休業を推進している中で、私が取得しないわけにはいかず、8月に娘が生まれた4か月後の12月15日〜31日までの17日間取得しました。第1子ということもあり、生まれてすぐの取得ではなく、少し落ち着いた時期に取ろうと最初から決めていたので、取得スケジュールとしては予定通りでした。ふだんはなかなか一緒にいることができない日中を共に過ごすことができたので、とても有意義な育休休業期間でした」



女性はもちろん男性だって育休休業！

今回は本社、製鐵、商事、製作所の5ケースです

女性はもちろん、男性の育休休業を推進している拓南グループ。育休制度を利用したイクメン(男性社員)とイクボス(育休休業の社員を支える上司)のインタビュー企画第8弾をお届けします。今回は、拓南本社(1ケース)、拓南製鐵2ケース、拓南商事(1ケース)、拓南製作所(1ケース)です。(拓南本社人事部)

拓南本社人事部

育休休業を取得したのは、部長の翁長辰伍さんです。

○翁長辰伍部長(令和4年12月15日〜31日)

「取得の感想は？」
「各家庭において、状況も環境も全く異なります。ですので、ご家族としっかり話し合い、取得日数や時期、タイミングなど皆様のベストなタイミングで取得することが良いと思います。長い・短いは関係なく、各家庭において有意義な育休休業を行っていただくことがベストですので、皆様なりの育休休業を取得してください」

拓南製鐵技術部

育休休業を取得したのは仲座康貴さん。イクボスは外間太朗課長です。

○仲座康貴さん(令和4年10月11日〜24日)

「育休休業を取得した感想を教えてください。」
「私は2週間の育休休業を取得しました。初めての育児でもあり、想像以上に大変でしたが、妻と二人三脚で育児に専念することができて、娘の成長も間近で感じることができたので、取得して本当に良かったと思います」

「取得の感想は？」
「私の班では初めての取得だったので不安もありましたが、上司に相談したところ快く承諾してくれてとても安心しました」
「育休休業が決まった際の申請手続きや引き継ぎなど



(左から)外間太朗課長、仲座康貴さん

「育休休業取得を打診した際、上司の様子はどのような感じでしたか？」
「私の班では初めての取得だったので不安もありましたが、上司に相談したところ快く承諾してくれてとても安心しました」

「育休休業が決まった際の申請手続きや引き継ぎなど

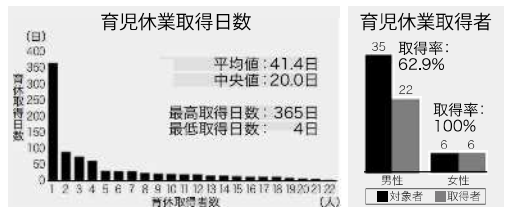
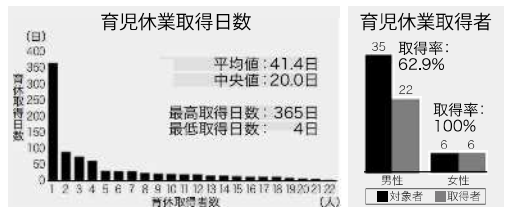
2年間の活動を終えて

人事部長 翁長辰伍

人事部として男性育休を推進してまいりましたが、2年間の活動を終えて報告をいたします。私たち拓伸会は、厚生労働省が推奨する次世代育成支援対策法に基づき、従業員の仕事と子育ての両立を図るための目標と対策を定める第1期一般事業主行動計画(期間…令和2年12月1日〜4年11月30日(2年間))を策定し、行動を行ってまいりました。

特に重要項目として、男性社員の育休休業取得促進を掲げ、さまざまな働きかけを行ってきた結果、予想以上の反応をいただき、計画期間を終了しました。

【行動計画期間の実績】
男性社員にお子さんが生まれたのは35人。育休取得者は22人の取得率62.9%。
取得日数の平均値は41.4日/中央値は20.0日、最高取得日数は365日、最低取得日数は4日。※女性は全員1年以上の取得にグラフ参照。



「育休休業取得を打診した際は、上司の様子はどのような感じでしたか？」
「とても理解していただき、ありがとうございます。社内への引き継ぎや役割分担などの割り振りも部長がしっかりと交通整理していただき、また各課長をはじめ部員にも『フッ、

「育休休業取得を打診した際は、上司の様子はどのような感じでしたか？」
「とても理解していただき、ありがとうございます。社内への引き継ぎや役割分担などの割り振りも部長がしっかりと交通整理していただき、また各課長をはじめ部員にも『フッ、



(左から)小橋川正弥課長代理、高江洲力部長

はスムーズに進みましたか？」
「部署の先輩方々に協力していただき、無事に申請手続きや引き継ぎができました」
「育休を検討している社員へメッセージをお願いしています」
「育休は本当にお勧めしたいです。子供の成長や育児の苦勞、喜びなどを経験できず、妻への負担軽減にもなり、体力だけでなく心にもゆとりを持つことができる大切な期間だと思います」

「育休は本当にお勧めしたいです。子供の成長や育児の苦勞、喜びなどを経験できず、妻への負担軽減にもなり、体力だけでなく心にもゆとりを持つことができる大切な期間だと思います」

「育休は本当にお勧めしたいです。子供の成長や育児の苦勞、喜びなどを経験できず、妻への負担軽減にもなり、体力だけでなく心にもゆとりを持つことができる大切な期間だと思います」

拓南製鐵営業部

育休休業を取得したのは小橋川正弥課長代理、イクボスは高江洲力部長です。

○小橋川正弥課長代理(令和4年11月6日〜20日)

「育休休業を取得した感想を教えてください。」
「私の妻は県外出身で、長女(2歳)とともに里帰り出産のため地元に戻っており、生活の準備期間として考えておりましたが、そう簡単にはいきなり、長女のイヤイヤ期と原因がわからない大泣きなど、育児の大変さを痛感しました。家族を持つ先輩方(男女問わず)の懐の深さはこれから来るのかなと思いました。家事と育児の両立のため最初はエンジン全開でしたが自己満足だったようで、逆に妻へのプレッシャーになっていくとも感じ、今ではできるときにできることをすれ

「育休休業取得を打診した際は、上司の様子はどのような感じでしたか？」
「とても理解していただき、ありがとうございます。社内への引き継ぎや役割分担などの割り振りも部長がしっかりと交通整理していただき、また各課長をはじめ部員にも『フッ、

「育休休業取得を打診した際は、上司の様子はどのような感じでしたか？」
「とても理解していただき、ありがとうございます。社内への引き継ぎや役割分担などの割り振りも部長がしっかりと交通整理していただき、また各課長をはじめ部員にも『フッ、



(左から) 新垣翔課長代理、渡名喜豊さん

拓南商事リサイクル事業部
育児休業を取得したのは渡名喜豊さん、イクボスは新垣翔課長代理です。

「〇〇するので心配しないで下さい」と声をかけいただき、とても感謝しております」
「育児休業が決まった際の申請手続きや引き継ぎなどはスムーズに進みましたか？」
「申請については、本社の石原さんからの確かな指示がありとてもスムーズでした。部内についても、何度か打ち合わせの場を設け、スムーズに引き継ぎしてあります。何かあれば電話やリモートでの対応も今では容易なので助かりました」
「育児休業を検討している社員へメッセージをお願いします。」
「育児休業はおすすです。会社で仕事をしている以上に育児は大変です。家族と育児の共有をするためにもまずは経験した方が、自分

が何をすべきかがわかると思います」
「イクボス・高江洲力部長 後輩社員から育児休業の希望があったとき、どう感じましたか？」
「奥さんが県外出身なので沖縄での生活も大変だろうと思っていました。しばらくは家庭を優先に考えてという声掛けはしていたので、本人から早めに相談がありました」
「育児休業に入るまでに、部内での引き継ぎなどはどのように行いましたか？」
「管理職ですので、部下への指示や業務内容の報告を常に受けて、状況把握をしながら他部員のスケジュール管理を行いました。また、他管理職のメンバーとも育児

休業中の業務運営について話し合いを行いました」
「他の部員のフォローはどのように行いましたか？」
「今回、私から部下への指示はほとんどなく、部員たちが話し合い、滞りなく仕事が進みました。みなさん快く受け入れてくれて、この業務は私がやります」と、率先して業務をしてくださりました」
「男性の育児休業について、どのように感じますか？」
「特に今回のような家庭環境では育児休業制度は良いと思います。家庭が安定してこそ仕事もスムーズに進みます。育児休業を取得する人が仕事に責任感を持ち、業務引き継ぎをしっかりとってお客様やチーム(会社)への悪い影響がなければとても良いと思います」

〇渡名喜豊さん(令和3年12月11日、令和4年12月10日)
「育児休業を取得した感想を教えてください。」
「毎日が寝不足で大変な日々だったので、育児休業をもらえたことがありがたくて非常に助かりました」
「期間を1年間にした理由を教えてください。」
「お互いの両親が共稼ぎで頼ることもできなかった中で、自分が妻と子供を精いっぱい支えようと思いました」
「育児休業を取得するにあたって不安などはありましたか？」
「給料が減る心配はありませんが、その他は特に不安はありませんでした」
「復職して2カ月ほどですが、スムーズに復職できましたか？」
「1年のフランクは大きく、ミスすることもありましたが、少しずつ感覚を取り戻せるように日々努力しています」
「育児休業を検討している社員へメッセージをお願いします。」
「ぜひ育児取得をお勧めします。妻も非常に助かったと言ってくれて、自分や育児休業取得を応援してくれた会社にとっても感謝していました」



(左から) 照屋航介さん、上間亨さん

拓南製作所フォーミング部
育児休業を取得したのは照屋航介さん、イクボスは上間亨さんです。

「育児休業を取得した感想を教えてください。」
「長男、次男の面倒を見ながら、赤ちゃんのお世話や出産直後の妻のサポートができ、大変満足しています。職員の皆さんには1カ月間少ない人員での業務がとても大変だったと思います。本当に感謝しています」
「育児休業はいつ頃から検討し始めましたか？」
「第2子が生まれた時には考えもしませんでしたが、男性の育児休業取得を会社が推奨しているのを知り、妻と相談して3人目が生まれたら取得しようと思ったました」
「育児休業取得が決まった際の申請手続きや引き継ぎなどはスムーズに進みましたか？」
「班の中で引き継ぎがしっかり行われていたため、心配していた業務のトラブルもありませんでした。休業期間が1年と長いので、復帰の際に業務の感覚を取り戻すのに時間が掛かる懸念がありました」
「男性の育児休業について、どのように感じますか？」
「子供の变化の大きい貴重な期間を夫婦で経験することで、子育ての喜びや苦労を奥さんと共有し、信頼を築くことで今後も家庭円満のきっかけになる非常に良い取り組みだと思います」

〇イクボス・新垣翔課長代理
「後輩社員から育児休業の希望があったとき、どう感じましたか？」
「渡名喜さんにとっても家族にとっても大切な時期にないと思だったので、大変良いと思いました」
「育児休業に入るまでに、部内での引き継ぎなどはどのように行いましたか？」
「育児休業に入る予定日の1カ月ほど前から、渡名喜さんの業務に他の社員をつけてOJTを行いました」
「1年間の育児休業取得ですが、不安はありませんか？」
「拓南グループは、社員の育児休業の推進を促すとともに、取得しやすい職場環境づくりを徹底しています。社員一人一人のワークライフバランスを尊重する、そんな企業風土を目指しています。育児休業を検討している皆さん、拓南本社人事部もしくは業務部雇用調整課までご連絡ください。」

「申請手続きに関しては、特に難しいこともなくスムーズに進みました。業務については、早い時期にみんなに伝えて準備することで、慌てることなく引き継ぐことができました」
「育児休業を検討している社員へメッセージをお願いします。」
「育児休業を取得すること、さらに家族愛が深まりました。立場や年齢に関係なく積極的に取得してもらいたいです」
「イクボス・上間亨さん 後輩社員から育児休業の希望があったとき、どう感じましたか？」
「第3子が希望の女の子と聞いてうれしくなりました。どのように感じていますか？」
「他の部員のフォローはどのように行いましたか？」
「日々のミーティングで情報共有しながら、業務の割り振りをしました」
「男性の育児休業について、どのように感じていますか？」
「拓南グループが育児休業を推奨しているので、ぜひ取得してほしいです」

《2頁より》

「生誕100周年」を報道 産業新聞

産業新聞は2月6日付と7日付の紙面で、古波津清昇生誕100周年記念式典・祝賀会Ⅱ152頁参照Ⅱの模様を紹介した。7日付記事の見出しは「生誕100周年、決断力と愛しのぶ」。

拓南製薬の古波津清昇氏 生誕100周年式典開く

拓南製薬創業者の古波津清昇氏 生誕100周年、決断力と愛しのぶ

式典へ拓南会長の出席

産業新聞 2月6日付

産業新聞 2月7日付

古波津会長に組合功労者表彰

県中小企業団体中央会新年会

1月

沖縄県中小企業団体中央会1月11日、ザ・ナハテラスで新年会を開いた。
その席上、九州中小企業団体中央会連合会の表彰伝達式が行われ、拓伸会の古波津昇会長が「多年にわたり中小企業の振興に寄与された功績は誠に顕著である」(石丸忠重会長)として組合功労表彰を受けた。



拓伸会から3氏 永年勤続表彰

那覇商工会議所

2月

那覇商工会議所(石嶺二郎会頭)は2月24日、令和4年度永年勤続優良従業員表彰式を沖縄ハーバービューホテル彩海の間で開いた。被表彰者197人のうち、拓伸会関係者は拓伸本社の花城可人氏(勤続15年)、拓南製鐵の島袋正樹氏(22年)、盛島守礼氏(17年)の3氏が表彰された。

花城氏は「35歳で拓南グループへ途中入社してから15年余り、ここまでごられたのは、上司、先輩方のご指導や、共に働く仲間のご支援のおかげです。今後は、若い後輩たちの育成も行いながら、さまざまな課題を楽しみながら頑張っていきたいと思います」、島袋氏は「あつという間の22年間でした。これからは若手の教



(左から)表彰状を手にする島袋氏、花城氏、盛島氏

上原大樹選手(商事) MVP

草野球 商事対製作所



拓南商事対拓南製作所の草野球試合が12月14日、コザしんきんスタジアムで開催されました。コロナ禍によりレクリエーションがなかなかできないなか、久々に体を動かさせ、両チームともケガなく、楽しい試合になりました。結果は、商事記録として(？)7対7の引き分けに。決着をつけるため、再戦を計画したいと考えています。ところで、MVPは、拓南商事入社2年目、野球初心者(？)の営業担当・上原大樹選手です。2点ビハインドの中、ベースを通り過ぎるほどの気迫のヘッドスライディングを見せ、同点打を呼び込みました。そのままベンチまでスライディングするかと思いましたが(笑)。(拓南商事 比嘉洋輔)

「宿直制」に事情あり

黒島 善茂



第一伸鉄工場の作業風景

拓南余話⑧

今回は少し視点を変えて、あの頃のサラリーマン(社員)気質的な話をしてみよう。
当時、サラリーマンの意識や行動は、今とはかなり違っていた。そもそも産業らしい産業がなかったのだから、企業社会で働くこと、すなわち組織人として意識が低かったのもやむを得ないことである。
もう一つ、沖縄の社会が多種多様にとんだ、本土とまったく異質の歴史や文化をたどってきたのも要因となっていたのではなからうか。
サラリーマンといえども給取り、すなわち一般的には「チュウウミン」(務め人)であり公務員(教職・警察など)を指していた。こうした背景からか、民間企業においては概して職

のためにもなく自分の席で仕事を始める。その時上司から指導や叱責をされているのを見たことがない。無断欠勤しかりである。もちろん、現在とは通信手段(電話)がかなり脆弱で、田舎などは共同売店がごく一部の家庭しかなかったから、ある意味しかなかったともとれる。
しかし、知人の結婚式に

お咎めもなく承認された。このような社会的環境を本土のサラリーマンからは揶揄して『テーゲー主義』とまで言われた。ひいき目と言えは家庭的な会社と言えなくもない。
無断欠勤でもっとも痛手をこうむったのは夜勤の伸鉄工場である。伸鉄作業は真つ赤に焼けた伸鉄材をハツカ(棒)の先が曲がったも

の)と鉄鉄でロールの溝穴(カリバー)へ入れる。それは送り手と受け手の絶妙なタイミングが必要で、相棒が変わることによってやけどが多くなり、場合によっては重大事故を引き起こすことになりかねない。言うまでもないが、生産量は20%以上ダウンした。
こうした事情、すなわち安全面と諸々の相談を受ける必要から「宿直制」を設けることになったのである。(拓伸会 前名誉会長)

2023年
1月1日〜2月28日
※一部本誌にも掲載していきま

生誕100周年記念
式典の取材中、創業者の顔がよぎった。創業者は「たくしんNEWS」の制作を私に依頼したとき、3つのミッションを授けた。そのときの真顔だ。「毎回、『拓鉄興琉』を啓蒙する紙面にしとてほしい」「記事は、いまの読者と数十年後の読者のために書いてほしい」「役員や社員にできるだけ書かせ、あなたが訓練をさせたいのだ。どんな評価をなさっているだろう。」(鈴木)